

歯科用小型 X 線 CT (3DX[®]) 画像診断： 補綴前処置において抜歯の決定に役立った 1 例

内田 啓一, 新井 嘉則, 永山 哲聖, 安河内智美, 塩島 勝

松本歯科大学 歯科放射線学講座

青山 貴廣, 甘利 光治

松本歯科大学 歯科補綴学第二講座

Diagnostic imaging by computer tomography for dental use (3DX[®]):
A case of useful determination of tooth extraction as pre-prosthetic treatment

KEIICHI UCHIDA, YOSHINORI ARAI, TESSEI NAGAYAMA,
TOMOMI YASUKOUCHI and MASARU SHIOJIMA

Department of Oral Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

TAKAHIRO AOYAMA and MITSU HARU AMARI

Department of Fixed Prosthodontics, Matsumoto Dental University School of Dentistry

歯科治療における補綴前処置は最終補綴物を装着するために必要であり、その治療計画を立案するためには X 線画像は有用である。今回、歯科用小型 X 線 CT (モリタ製作所、京都、以下 3DX[®]とする) により、補綴前処置において抜歯決定に役立った 1 例を経験したので、その画像を供覧し報告する。

患者は 49 歳、女性であり、上顎右側第二小臼歯部の修復物が脱落したため、本学補綴科を 2003 年 2 月 14 日に受診した。断層方式パノラマ X 線写真、口内法 X 線写真では、上顎右側第二小臼歯、第一および第二大臼歯部において歯根膜腔の拡大と根尖病変を認め、近遠心歯槽骨の吸収を認めた (写真 1)。これに対し 3DX[®]画像では、上顎右側第二小臼歯の根において破折線 (写真 2 矢印) と根尖部に内部が均一な類円形の不透過像を認め、一部上顎洞を挙上し洞底線の菲薄化が認めら

れた。上顎右側第二大臼歯部の遠心根に縦走する破折線 (写真 3 矢印) を認めた。また、上顎右側第二小臼歯、第一および第二大臼歯部の歯槽骨は根尖部まで吸収し (写真 4 矢印)、頬側および舌側の皮質骨の吸収像 (写真 4 △印) を認めた。

断層方式パノラマ X 線写真および口内法 X 線写真において、根尖病変と歯槽骨吸収像は観察できたが、破折線の描出はできなかった。破折線的位置や変位を生じている場合は、口内法撮影法においても破折線を確認することは可能ではあるが、正確な位置を診断するのは困難である。

今回の症例においては 3DX[®]において破折線を容易に観察することができ、さらに周囲歯槽骨の著しい吸収像を認めたため、保存不可能と診断され、補綴前処置として抜歯を行うことに決定された。

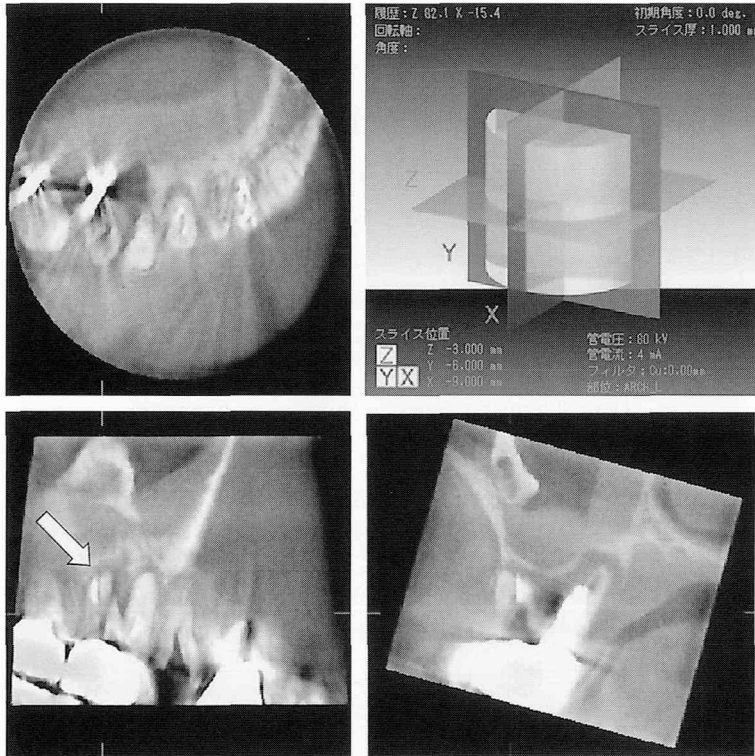


写真 3 : 上顎右側第二大臼歯部の遠心根に縦走する破折線 (矢印) を認める。

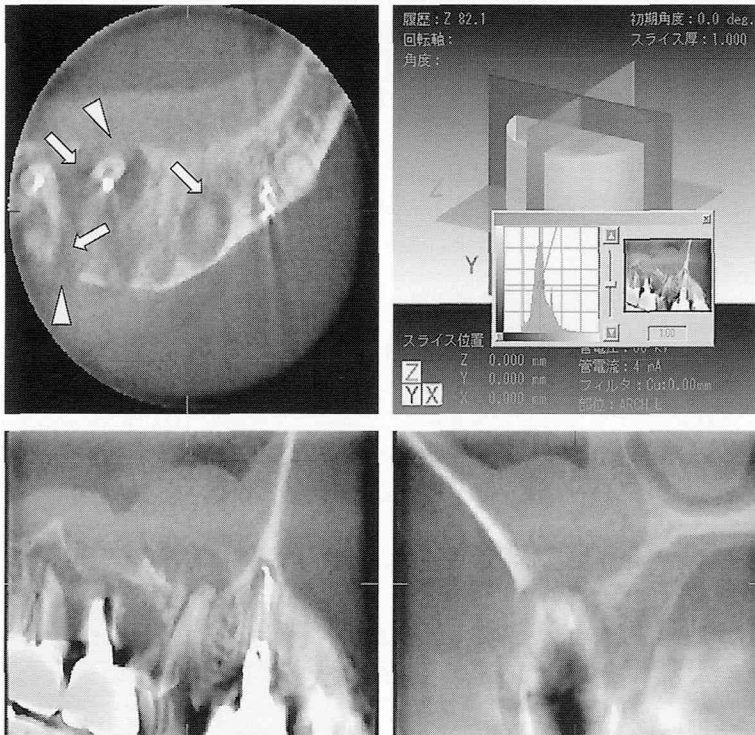


写真 4 : 上顎右側第二小臼歯, 第一および第二大臼歯部の歯槽骨は根尖部まで吸収し (矢印), 頬側および舌側の皮質骨の吸収像を認める (△印)。